資料２

令和８年度　第１回
川口市障害者福祉計画等策定に伴う意見交換会
議　事　要　旨

［日　　時］令和８年８月２０日（木）１０：００～１１：５０

［場　　所］川口市役所第一本庁舎５階５０１大会議室

［出 席 者］

１　障害者団体

一般社団法人川口市身体障害者福祉会
川口市聴力障害者協会
川口市視覚障害者福祉協会
川口市精神障害者の会　よつば
川口あさひ福祉会

２　事務局

山路補佐、小柳補佐、石川補佐、今井主査

［テーマ］

（１）施策について
　① 相談支援、コミュニケーション支援、権利擁護
　② 障害に関する理解の促進
　③ 地域生活支援、家族・介護者支援
　④ 雇用・就労の促進
　⑤ 文化・芸術、スポーツ活動
　⑥ 障害児とその家庭への支援
（２）団体の運営・活動上の課題など

［議事要旨］

１　開　会

事務局より、開会が宣言された。

２　テーマ

（１）施策について

① 相談支援、コミュニケーション支援、権利擁護

【質疑応答・意見】

（団　体）　重複障害者への配慮として、障害の区分だけでなく得意・苦手を見極めた支援を望む。自立支援医療受給者証更新時の「かわぐちメンタルヘルスガイド」の未所持者への配布、窓口での記入支援、申請書見本の色覚障害への配慮、市ホームページの見直し（デザインが見づらいため)、福祉の総合相談窓口の設置を提案する。

（事務局）　届いていない課題を認識し、申請書の記入支援や制度説明を行う窓口機能の充実について検討したい。

（団　体）　市役所の分かりやすく視認しやすい位置に相談・案内窓口を配置してほしい。

（団　体）　手帳交付時の丁寧な制度説明や当事者団体の紹介、民生委員等との個人情報に配慮した地域支援連携を求める。

（事務局）　地域における障害者把握は課題が大きいが、当事者団体への情報提供は重要と認識している。

（団　体）　当事者団体の存在や活動案内チラシを市役所窓口で配布・配架できる仕組みを作ってほしい。

（事務局）　当事者団体の案内等については窓口でお預かりし、手帳交付時や問い合わせの機会に随時情報提供を行う対応が可能である。

②障害に関する理解の促進

【質疑応答・意見】

（団　体）　大型ビジョンや市広報番組を活用したメンタルヘルスの情報発信、ヘルプマーク利用者の感謝の声を届ける啓発活動、「こころのサポーター養成講座」のさらなる推進を望む。

（事務局）　感謝の声を届ける視点は貴重である。「こころのサポーター養成講座」は障害者自立支援福祉計画の策定にあたり、国の基本指針の中で成果目標に掲げられているため、推進していくものと考えている。

（団　体）　バス通勤等での頻繁な提示による手帳の破損・劣化を防ぐため、カード型手帳の導入を望む。

（事務局）　他自治体の導入事例も参考にします。

③ 地域生活支援、家族・介護者支援

【質疑応答・意見】

（団　体）　直接介護を受けている当事者や家族からの意見を反映させることが重要である。

（事務局）　無作為で抽出するアンケートを通じて当事者や家族のニーズを把握する予定である。

④ 雇用・就労の促進

【質疑応答・意見】

（団　体）　障害福祉サービスにおけるピアサポート加算制度の活用に向け、市内事業所のピアサポート研修受講促進と市の積極的な支援・周知を求める。

（事務局）　現在市内に加算取得事業所がない現状を踏まえ、事業者への効果的な導入支援策を模索したい。

（団　体）　視覚障害者向けに、居宅介護の家事援助枠とは独立した「代筆・代読事業」を単独で設置してほしい。

（事務局）　現状は居宅介護や同行援護等で対応しているが、他地域の先行事例等を研究・検討したい。

（団　体）　川口市独自の盲ろう者支援制度（買い物同行・移動支援・専門ヘルパー派遣等）の整備を要望する。

（事務局）　県及び他市と連携し、専門の派遣事務局（埼玉県盲ろう者等通訳・介助員派遣事業事務局）へ委託する形で実施している。

⑤ 文化・芸術、スポーツ活動

【質疑応答・意見】

（団　体）　障害種別を超えた交流スポーツイベント（モルック等）の開催や、過去に中止となった地域交流会の再開、案内における市の協力・早期周知を要望する。

（団　体）　サウンドテーブルテニス等を通じたボランティア育成や、大会の事前周知、冷房設備のある会場確保を望む。

（事務局）　来年度は企画段階から市も相談に入り、ホームページ等を活用した早期 PR や会場確保を支援したい。

（団　体）　新設される市立美術館において、障害者が鑑賞・体験できるように学芸員、ボランティアの育成体制を整えてほしい。

⑥ 障害児とその家庭への支援

【質疑応答・意見】

（団　体）　地域の学校において障害児を普通学級の中で共に育てる視点や、親の意向だけでなく子供本人の選択肢・意思を尊重する教育環境づくりが必要である。

（事務局）　インクルーシブ教育の推進、医療的ケア児支援、幼少期の意思決定支援も含め検討を進める。

（２）団体の運営・活動上の課題など

【質疑応答・意見】

（団　体）　大雨・災害時における直感的に分かりやすい視覚情報（「今すぐ逃げて」等の平易な表現を用いた防災メール）の発信を要望する。

（団　体）　荒天時の在宅避難の現実を踏まえ、一次避難所（公園）と風水害避難所（学校・公民館等）の区別の周知徹底を望む。

（団　体）　拠点の消失やコロナ禍、若者のSNSコミュニティ移行等に伴う会員数の減少と役員の高齢化・後継者不足が深刻である。
（団　体）　当事者同士の悩みの共有や、行政へ声を届けることができるといった、団体の意義を伝え温かい団体としてアピールしていきたい。
（団　体）　親子双方の高齢化に伴い活動の縮小を余儀なくされており、今後のあり方が課題である。
（事務局）　若い世代のネットワーク形成やPR支援も含め、課題解決に向けて連携を図りたい。

３　閉　会

事務局より、閉会が宣言された。

以　上